

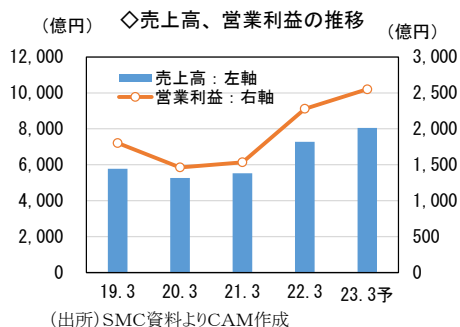
企業ニュース SMC

(東証プライム : 6273) <https://www.smeworld.com/ir.htm>

作成者: 奥村義弘

自動制御機器の総合メーカー

1959年設立。主力の「空気圧制御機器」は、空気の力と流れを利用して人間の代わりに作業を自動化する部品・パーツで、自動車の生産ライン、半導体製造装置、各種工作機械、食品の包装など様々な機械に組み込まれている。これらの機器は、少子高齢化、労働人口の減少、人件費高騰、デジタルシフトの促進、新型コロナウイルスの広がりなど社会・環境・産業構造の変化を受けて成長が見込まれる。同社はユーザーニーズに合わせて、多種多様な製品を組み合わせるシステム構築する提案力と技術力を有する自動制御機器メーカーとして存在感



が大きい。22.3期の仕向地別売上高構成比は国内24%、米国11%、中国26%、アジア（中国を除く）18%、欧州17%、その他4%。世界80カ国以上に販売拠点をもち、短納期体制を構築している。

受注モメンタムは引き続き良好、株主還元に向き姿勢も好感できよう

23.3期の会社計画は売上高が8,050億円、前期比11%増、営業利益が2,550億円、同12%増。年間配当金は1株当たり900円と150円増を計画。期初の受注モメンタムは、電機、医療、自動車、工作機械向けなど引き続き強い。地域別には中華圏、北米、欧州向けとグローバルで好調。今期についても売上高、営業利益共に過去最高の更新を見込む。半導体を中心とした部材調達難が一番のリスク要因だが、半導体および二次電池向けの売上好調が持続するとみている。

23.3期の設備投資計画は1,200億円、前期比44%増と積極的。売上増加を支える生産能力の確保とBCP（事業継続計画）の観点から生産拠点の地理的分散に対応する。生産能力面からは、国内の下妻・遠野・釜石を能力拡充。海外では天津、ベトナムの拡充、品目分散を進める。サプライチェーンの整備に向けては遠野サプライヤーパークの整備による協力会社の生産能力・BCP体制の底上げもユニークな試みといえよう。このほか、ITインフラの整備を進め、生産の自動化・DX化、製品物流の整備なども推進する。

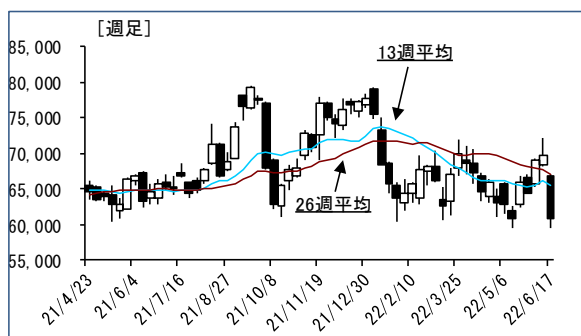
[株価動向・投資判断]

受注モメンタムは引き続き良好、市場シェアを拡大させるなどポジティブな動きを示している。昨年の社長交代以降の積極的な経営姿勢も株価を支えよう。

<6273 SMC 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	552,178 (5)	153,355 (5)	171,827 (8)	121,790 (10)	1,832.0	500.00
22.3	727,397 (32)	227,857 (49)	272,981 (59)	192,991 (58)	2,923.8	750.00
23.3 予	805,000 (11)	255,000 (12)	265,000 (▲3)	188,000 (▲3)	2,877.2	900.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/6/17)	60,740 円
年初来高値 (高値日)	79,250 円 (22/1/5)
同 安値 (安値日)	59,430 円 (22/6/17)
予想 P E R (23.3 予)	21.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	23,808.1 円
P B R	2.55 倍
予想配当利回り	1.48 %
(1株当たり配当金年900.00円)	
R O E (22.3)	13.2 %
発行済み株式数	6,737 万株